

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172600419
法人名	医療法人社団 康誠会
事業所名	グループホーム ケア・ガーデンおおの
訪問調査日	平成20年12月8日
評価確定日	平成21年1月28日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600419		
法人名	医療法人社団 康誠会		
事業所名	グループホーム ケア・ガーデンおおの		
所在地 (電話番号)	〒501-0553 岐阜県揖斐郡大野町南方二度桜191番地 (電話) 0585-35-0088		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成20年12月8日	評価確定日	平成21年1月28日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,750 円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームケアガーデンおおのは、「住みなれた町で、その人らしく生き生きと・・・」の理念を基にサービスの質の向上に向け、理事長・事務長・管理者及び職員が利用者に合わせその人らしく生活できるよう支援している。田園風景の中にある建物は併設施設プラザ21おおの敷地の中に併設されており、2階にあるグループホームに訪問すると玄関が2階であることを感じさせない開放的な雰囲気である。食堂はパノラマの窓から田園風景が見渡せ、外の様子や自然の移り変わりや動きを感じることができる。職員が働きやすい職場であるように、理事長や事務長、管理者の理解により、職員の無理なシフトは利用者への事故の危険性も考え、利用者主体を第一に考えられた勤務調整となっており、職員が自発的に仕事ができ、介護にのびのびとした雰囲気が感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善はなし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対して、管理者は職員各自が自分の仕事に対する姿勢に振り返りの機会としていて、ホームの質の向上・職員の意欲の向上につながるとして取り組んでいるので、制度の義務としてではなく実施することは意義のあるものと理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、地域包括センター、民生委員等の参加があり、ホームの運営を知ってもらうよい機会と考えている。会議の中で職員が考えつかない意見を聞くことができるとして、更なる質の向上につながるという考えをもっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族交流会にレクリエーションなどの行事を取り入れたり、家族の意見が引き出しやすいように雰囲気を作るように心がけている。職員も利用者の日々の様子や表情から気持ちを読み取れるように努めていて、管理者だけの一方的な意見ではなく職員間で話し合いが出せる雰囲気がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩、喫茶店、買い物等で挨拶をかわし、気軽に立ち寄ってもらえるように声かけをしている。学校行事に訪問したり、ボランティアとして民生委員の参加協力を依頼している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム ケア・ガーデンおおのは、「住み慣れた地域で、いつまでも健康に生き生きと・・・」という、理念を基に家庭的な雰囲気の中で地域住民との交流に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務長や管理者がグループホームの特徴を理解しているため職員の働く姿にも、その理念を職員が共有して家庭的な雰囲気の中で日々の生活の中でケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には法人全体で加入しているが、利用者は地域の民生委員のボランティアや中学校のコンサートに車いすで参加したり、散歩では顔なじみの人に立ちよってもらうよう声かけをしたり、地域の喫茶店に出かけ顔なじみになり挨拶ができるように地域の人との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者自身が外部評価に対して義務だからという考えで取り組むのではなく、前向きに外部評価を捉えている。職員各自も仕事に向きあう姿勢を振りかえることができる良い機会とし、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、地域包括支援センター、民生委員等の構成で開催され毎回、入居者状況や活動報告を行い、前回の会議以降に変わったことも伝え、前回の助言や質問事項についての経過等を伝えている。自分たちが考えつかない意見が聞ける機会としてとらえ、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大野町5か所の各グループホームの管理者と市町村、民生委員が年2回会議を行い、問題点、要望のディスカッションをして、今後の在り方を検討している。事業所同士で作成したグループホームのポスター、パンフレットなどを役場へ依頼して掲示できるように働きかけている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの便りを毎月発行しその月にあった出来事やホームの暮らしぶりや毎月の金銭管理の内訳を家族に郵送している。また、面会時には近況や健康状態の報告や介護計画を伝え、家族の要望・意見を聞くようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は、医院長及び管理者となっており、玄関に意見箱の設置もある。面会時話し合い、出てきた意見をグループホームの運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理事長、事務長は働きやすい職場づくりに力を注いでおり、職員の無理なシフトを避け、管理者自身が休暇希望等に柔軟に応じられるよう協力態勢をとっている。また管理者は、利用者にとって馴染みの職員の対応は利用者が日々の暮らしの中で安心して生活できることと認識しており、職員の異動には慎重である。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度末に法人へ研修予定を提出するようにして、計画的な研修の参加を推進しており、外部からの研修に対しても情報を周知して教育に組み込んでいる。ホームの代表として参加する研修においては、日勤扱いとして研修に出席しやすい体制となっている。研修後はフィードバックされる機会があり、他の職員が共有できる。勉強会を定期的に行う環境がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域のグループホームの管理者と定期的に運営や困っていることを話し合える機会がある。同法人のグループホームと共に検討会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に施設を見学してもらうことから始まり、家族以外の親戚等にも見学してもらい話をし、理解してもらえよう働きかけている。利用者本人が、2～3回グループホームを訪問し、職員と顔馴染みになってから本人の様子を観て家族と相談し入居となる。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が共に生活していると認識している。「～してあげる」「～してください」というような言葉がけはさけ、利用者が自分でできたような言葉がけをしたり、「～していいかな」と言うように利用者には足りないことを自分で見つけられるような言葉がけを実践している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はトイレ・お風呂など利用者とのコミュニケーションの時間としてとらえており、その場その場を大切な時間として丁寧に対応している。アセスメントで家族などの希望を聞いたり、また、表出困難な利用者に対してはその人の笑顔等の表情で何が良かったかを職員皆で検討し、対応に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は自由に意見が出せる雰囲気があり、職員皆で話し合い、利用者一人一人が生き生きと安心して生活できるよう把握に努めている。面会を通して家族等から話を聞き支援に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の見直しが行われている。急変時にはかかりつけ医・家族・職員・おおのクリニックの職員で話し合い、利用者に沿った見直しができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人が併設しているデイケアサービスや移送サービスも利用できる。また、利用者の散歩時に自宅に立ち寄り利用者はもとより、家族の状況に応じて、事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、同意を得て、ホームの主治医はおおのクリニックとなっており、週1回の往診がある。しかし、本人及び家族が馴染みの医師を希望した場合は、本人・家族の意思を尊重し継続している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、終末期に対しての指針を文書で渡し、詳しく説明している。その際に、利用者及び家族の意向を確認し、考えが変わった場合についても絶えず耳を傾け、臨機応変に対応できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者が1人で出来ないことに対して、手をだすのではなく、1人で出来るようにさりげない言葉かけや配慮をしている。また、個人ファイルの管理にもプライバシーに配慮し、訪問者の目に付かないところに保管してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望・体調面を見ながら、職員が強制するのではなく、利用者のペースにあわせ、「今何がしたいか」「いかに楽しく過ごせるか」を把握し、起床時間や食事時間についても本人の希望で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と職員が同じものを食べ、賑やかな食卓となっている。また、お茶を入れたり茶碗ふきなど参加できる利用者は職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の楽しみごとの1つであるが、利用者がいつでも入れるように曜日を決めていない。また、入浴たくない利用者には、声かけし居室にて顔拭き・清拭・足湯などを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時等にアセスメントでの聞き取りや生活歴・趣味の確認をしている。また畑には、白菜や大根などの野菜が作っており、収穫は利用者が職員と共に行っている。訪問時の昼食にはこれらの野菜が並び食卓を華やかに飾っていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは短い時間であっても一人ひとりに合わせ利用者を外へ連れ出す機会をつくり、近くに散歩に行ったり、買い物に出かけるなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は、鍵をかけることによる閉塞感をなくすため、日中玄関・居室に鍵をかけず、玄関ドアも開いていて、開放的で入りやすい雰囲気がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害・避難訓練を消防署の協力を得て、併設の事業所と共に行っている。またミーティングや職員会議等で、災害について話し合い、有事の場合に備え緊急連絡網の作成や備品の確保をしている。しかし、避難訓練等に地域住民の参加はない。	○	運営推進会議などの場において民生委員などに、避難訓練に地域住民が参加してもらえるよう声かけを依頼することを希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日5回ほど水分補給を行っており、バイタルや食事摂取量などそれぞれ個別に記録されている。栄養バランスについては、管理栄養士が利用者の身体状況や排泄状況を把握し、カロリー計算して献立している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きな窓があり、近くに柿畑が広がり、遠くには金華山や岐阜城が望め、落ち着いた空間となっている。事業所内は清潔でとても衛生的である。玄関や廊下・居室等には利用者の写真やホームで行われた行事の写真・利用者の作品が飾られ家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、作り付けの家具があり、利用者の馴染みの物の持ち込みや家族の写真・花や書道など利用者が落ち着いて生活できる空間となっている。		